

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201567		
法人名	社会福祉法人 葉港会		
事業所名	高齢者グループホーム 天神ベイヒルズ		
所在地	長崎県佐世保市天神町1205-19		
自己評価作成日	令和5年2月6日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保の中心部「天神の丘」の住宅街に位置し、散歩やショッピングが身近に楽しめるのが魅力です。交通の便にも優れ生活環境、自然環境、そして展望とどれをとっても満足して頂ける環境です。利用者様、ご家族共に個々の時間をゆっくりと過ごすことができるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

佐世保市にある天神山を登った住宅街に当ホーム及び同法人のケアハウスがある。ホームは昨年6月に開設し広々とした廊下やフロア、トイレ等、入居者が明るい環境の中でいきいきと生活ができる環境を整備している。フロアの窓からは佐世保市街地や、佐世保港、遠くには女愛宕山と呼ばれる赤崎岳が一望でき、開放的な環境のもと入居者はゆっくりとホームの時間を過ごすことができる。ホームは自立した入居者が多く、職員は散歩や作品の制作等、入居者が残存能力を活かしながら活動的に取り組んでおり本人の「楽しさ」や「やりがい」に繋げている。コロナ禍により開設後から外出支援が思うようにできていないが、ホーム周辺にあるスーパーマーケットや保育園、公園等のほか、日用雑貨店や回転ずし店等、商店や社会資源が立ち並び、外出支援には恵まれた立地環境であることから、今後、コロナ禍収束後の更なる支援の取り組みに期待が持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に入居者様が地域の中で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支えるための理念を持っています。	職員は朝礼時に理念に触れ、各自が確認している。入居者が太陽の下で散歩したり、歌をうたったり、フロアで音楽をかけて穏やかに過ごすことができるよう努めている。食事の支度中にご飯や料理の匂いがフロアに漂い、香りが楽しめるよう理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方と情報交換を行います。また、地域学校行事等案内があれば来賓として参加致します	民生委員より地域の情報を得ている。民生委員の依頼で地域公民館で開催する『いきいき百歳体操』に同法人関連施設の作業療法士や看護師が出向いてリハビリテーションプログラムの体操を行い、地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修や認知症ケア専門誌等の資格を積極的に取得し地域の方々に認知症についての理解を深めて頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催とし、参加者様のご意見を伺い取り入れながらサービスの向上に努めています。	昨年6月開設当初から運営推進会議は実施できていない。	運営推進会議はコロナ禍であっても書面会議で実施するなど省令どおり年6回開催し、運営推進委員との意見交換を継続しながらサービス向上を図ることが望まれる。行政や地域包括支援センターの担当者、地域住民、入居者、家族、有識者等を運営推進会議の構成メンバーとして依頼し、会議を実施できるよう取り組むことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り合います。	地域包括支援センター担当者との入居の相談やホームの空床状況について連絡を取り合っている。また、生活保護関係は市生活福祉課、金銭管理、自立支援事業の利用、成年後見制度の相談等は社会福祉協議会などの関係機関と協力体制を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルを作成し職員で共有し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。	定期的に身体拘束委員会を開催し、身体拘束や虐待について意見を出し合っている。また、身体拘束に関する勉強会を実施している。入居時に入居者本人の心身状況についてどのような身体拘束や虐待が予想されるか等を職員間で検討している。	現在は経過措置期間であるが、今後虐待防止委員会の設置に向け取り組むことを期待する。また、身体拘束委員会や、虐待防止委員会、及びこれらの研修は、それぞれの実施内容が分かるよう記録に残すことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5つの虐待を行わないよう注意をし、研修にも参加し情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修に参加をし、情報を共有する場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様ご家族様が理解・納得されるまで説明を行い納得されたうえで署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあい設置箱や日々のご家族との連絡の中で意見や要望をお聞きし報告を行います。	ホームの玄関にふれあい設置箱と記載し、意見箱を設置している。職員は入居者との日頃の会話の中で意見を聞き取り、また、家族との面会時に意見を聞いて、申し送りノートに記録し、タブレットに入力して残し、職員間で共有している。	入居時に家族等へ重要事項を説明する際は、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるよう第三者(外部)評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価時には家族へアンケート調査を実施しており、外部者へ意見等を表せる機会となる旨も説明することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった場合は報告を受けた上で検討し、可能な限り反映させています。	管理者は朝礼時に職員意見を聞き取り、ホーム内の設備等についての意見は、管理者が理事長に報告して運営に反映している。現在、無資格の職員が数名いることから、令和6年3月までに『認知症介護基礎研修』を受講させる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って就業できるように職員の意見や要望を聞きながら労務士と相談を行い環境や条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として内外研修への参加や各資格取得を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同での研修会の企画、参加をおこない資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に感じることを、困難なことを面談の中でお聞きすることで事前に予測できる事を契約時に説明しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族が不安に感じていることを受け止め改善できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況にあったサービスの提供が行えるかを考え、その他サービス利用も検討し視野に入れた上で対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身の居室にとどまることなく共有スペースで職員、他の利用者様、ご家族様と触れ合える場を提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を蜜に行い、ご家族と共に利用者様の支援者として良好な関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた散歩や買い物等に行けるようご家族にも支援をしています。	管理者は入居申し込み時に関わりのある介護施設や家族、本人へ生活歴を聞き取っている。家族が面会に訪れた際、家族と一緒に近隣を散歩したり、職員と自宅周辺に出かけるなど支援している。馴染みの美容室を継続できるよう取り組んだり、在宅生活時に交流があった近隣住民との面会等、馴染みの関係性を継続できる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介護だけでなく利用者様と共に日常生活を行い利用者様同士の関係に気を配りながら関係が円滑になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりのあった方々とお付き合いを大切にし、引き続きの相談や訪問をしていただけるよう心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の意向を大切にし、様々な情報を得ながら要望に沿った支援を行うようにしています。	日常生活の中で入居者が発した言葉や会話の中で意向を把握している。家族へは面会時や要介護認定更新時を通じて本人へ意向を聞き取り、6か月に1回の介護計画見直し時に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から得た情報を反映し、ご本人のご希望に沿いながらその人らしく生活できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様1人1人の1日の様子を申し送りして把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族から意見をお聞きし、担当者会議を行う中で職員からの意見を出し合い介護計画に反映しています。	毎朝の申し送り時に職員と情報共有し、申し送りノートやタブレットに入力した内容を基に介護支援専門員がアセスメントやモニタリングを行って介護計画を作成している。介護計画原案を職員や家族に提示して確認し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化を記録し、変化については情報を共有しながらサービスの実践や介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に合わせ相談や話し合いを行い柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生員、地域住民、地域包括と情報交換を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、入居者様やご家族がご希望されるかかりつけ医があれば協力し情報共有します。	入居時に本人や家族に入居後かかりつけ医の希望を聞き取り、以前からのかかりつけ医、ホームの協力医や、歯科医による2週間に1回の訪問診療に関し説明し家族へ選択を促している。他科受診は家族対応となるか、介護タクシーを利用し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理に応じた支援が行えるように協力医や看護師と連携を取り配慮をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態把握を行い、医療機関と連携が図れるよう配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の意向を重視し、職員で終末期について考え協力医と相談できる体制をととのえています。	入居者の身体状況を把握するため、協力医がアンケートを実施している。職員と家族が協力医と面談し、看取りの方針について話し合っている。ホームの看取り方針は、訪問看護師による点滴までを支援する旨説明し、家族の意向を聞き、意向に沿った支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で急変時に備え研修を行い円滑な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	ハザードマップの確認、避難場所の確認を行い災害時の対応が円滑にできるよう努めています。	令和4年6月のホーム設立から令和5年3月までに火災や自然災害による避難訓練は未実施であった。地域住民等の協力体制を構築するまでには至っていないが、今後、地域住民等に協力を働きかけ関係を構築していく意向である。	今後、早急に年2回以上の避難訓練、消火訓練を実施することが望まれる。また、夜間想定訓練や自然災害想定訓練のほか、職員全員が初期消火ができるよう消防署の指導下で訓練を実施し、訓練実施内容は写真を撮り記録として保管することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分に配慮をし、日常成果においても自尊心やプライバシーを守るよう職員の意識向上を図っています。	職員は入居者の居室に入室する際はノックをして本人の名前を呼び、不在の居室には入居者に入室する旨を説明し、了解を得て入室している。プライバシーや人格尊重について、身体拘束や虐待のチェックリストを作成し、毎月の勉強会実施時に職員が記入し、半年毎に集計して理解度を把握している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望、要望を伺い、選択肢の中からご自身で選択できる場を作るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせてながら気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援をおこなうよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師訪問を行い、入居者様やご家族様のご希望によりカットのサービスを提供しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが豊富で、食事の話題等で楽しい雰囲気の中食事をされています。	ホームの食事は宅配業者に委託している。炊飯や汁物はホームで調理している。手作りのおやつを提供することもある。入居者が食べたいものを希望する場合は職員が把握し、家族へ購入を依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回確認し、量、内容、形態についてはご本人やご家族、主治医の意見を参考にしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内チェックを行い入居者様の状態に合わせて口腔ケアの支援を行ない、必要に応じて訪問歯科医との連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様お一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うようにしています。	入居者全員がトイレで排泄できるよう個別に排泄パターンを把握している。不適切な排泄行為については原因を追及して改善に努めている。、家族より希望があれば本人のパッド使用枚数を記録し、報告している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い排便状況の確認を行っています。必要に応じて主治医の意見を聞きながら自然排便を促すよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、健康状態を確認しながら入居者様の意向に沿うよう入浴支援を行っています。	入居者1人当たり週2回の入浴日を決めている。入浴日に拒否したり体調不良等で入浴を実施できなかった場合は、翌日の入浴予定の入居者との入れ替えを行う等、週2回は入浴できるよう取り組んでいる。心地よい入浴ができるよう入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、入居者様の体調や生活リズムを整えるように努めています。また、体調などで個別に対応し休息できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を保管し職員が把握できるようにし、服薬管理を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操などを行い個人の好みに合った活動を行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日には職員やご家族と戸外へ出られています。	コロナ禍で外出支援はできていないが、家族と一緒に出かけたり、職員と一緒に近隣を散歩する等、外気浴や気分転換ができるよう支援に努めている。移動販売車がホームの玄関前まで来る日には希望する入居者が欲しいものを購入できるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に金銭管理をお願いしています。買い物については希望に沿うように意見を伺いお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは常に可能で必要に応じて支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも共有スペースに来れるように、清潔に心がけています。オーシャンビューが見えやすいように、華美な飾りつけしないように心がけています。	新築の建物で広い廊下やフロアがあり、圧迫感がない造りである。掃除専門担当者がフロアやトイレを清掃し、各居室は週1回、掃除機や拭き掃除を行っている。感染対策として次亜塩素酸水を使用し、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースだけでなく玄関ホールにも椅子を設置し観葉植物や写真啓示を行い居心地の良い環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具をお持ちいただき、入居前と変わらぬ環境で安心して過ごせるよう配慮をしています。	入居時に、居室への持ち込み品について家族へ説明し、入居者は使い慣れた布団や仏壇、位牌等を持ち込んでいる。居室で在宅時の生活に近い環境づくりに配慮し、本人が居心地よく過ごせるよう支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの状態を確認し、居室だけに限らず全体について職員で意見を出し、その都度の状態変化に合わせた支援が行えるよう努めています。		

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「太陽と音楽と香りと語らいを」を基本理念に入居者が地域の中で健康で幸福な安心と信頼あふれる生活を支えるための理念を持っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方と情報交換を行います。また、地域学校行事等案内があれば来賓として参加致します		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修や認知症ケア専門誌等の資格を積極的に取得し地域の方々に認知症についての理解を深めて頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催とし、参加者様のご意見を伺い取り入れながらサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連絡を取り合います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルを作成し職員で共有し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5つの虐待を行わないよう注意をし、研修にも参加し情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修に参加をし、情報を共有する場を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様ご家族様が理解・納得されるまで説明を行い納得されたうえで署名捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ふれあい設置箱や日々のご家族との連絡の中で意見や要望をお聞きし報告を行います。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があった場合は報告を受けた上で検討し、可能な限り反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って就業できるように職員の意見や要望を聞きながら労務士と相談を行い環境や条件整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として内外研修への参加や各資格取得を推奨しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同での研修会の企画、参加をおこない資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に感じることで、困難なことを面談の中で聞きすることで事前に予測できる事を契約時に説明しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時にご家族が不安に感じていることを受け止め改善できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況にあったサービスの提供が行えるかを考え、その他サービス利用も検討し視野に入れた上で対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身の居室にとどまることなく共有スペースで職員、他の利用者様、ご家族様と触れ合える場を提供しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密に行い、ご家族と共に利用者様の支援者として良好な関係が築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に行っていた散歩や買い物等に行けるようご家族にも支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介護だけでなく利用者様と共に日常生活を行い利用者様同士の関係に気を配りながら関係が円滑になるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりのあった方々とお付き合いを大切にし、引き続きの相談や訪問をしていただけるよう心がけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の意向を大切にし、様々な情報を得ながら要望に沿った支援を行うようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から得た情報を反映し、ご本人のご希望に沿いながらその人らしく生活できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者様1人1人の1日の様子を申し送りで把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族から意見をお聞きし、担当者会議を行う中で職員からの意見を出し合い介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化を記録し、変化については情報を共有しながらサービスの実践や介護計画の見直しに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族の要望に合わせ相談や話し合いを行い柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域民生員、地域住民、地域包括と情報交換を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、入居者様やご家族がご希望されるかかりつけ医があれば協力し情報共有します。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理に応じた支援が行えるように協力医や看護師と連携を取り配慮をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態把握を行い、医療機関と連携が図れるよう配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者やご家族の意向を重視し、職員で終末期について考え協力医と相談できる体制をととのえています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員で急変時に備え研修を行い円滑な対応ができるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	ハザードマップの確認、避難場所の確認を行い災害時の対応が円滑にできるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いには十分に配慮をし、日常成果においても自尊心やプライバシーを守るよう職員の意識向上を図っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望、要望を伺い、選択肢の中からご自身で選択できる場を作るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせてながら気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援をおこなうよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師訪問を行い、入居者様やご家族様のご希望によりカットのサービスを提供しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが豊富で、食事の話題等で楽しい雰囲気の中食事をされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回確認し、量、内容、形態についてはご本人やご家族、主治医の意見を参考にしながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内チェックを行い入居者様の状態に合わせて口腔ケアの支援を行ない、必要に応じて訪問歯科医との連携を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様お一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い排便状況の確認を行っています。必要に応じて主治医の意見を聞きながら自然排便を促すよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い、健康状態を確認しながら入居者様の意向に沿うよう入浴支援を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ日中の活動を促し、入居者様の体調や生活リズムを整えるように努めています。また、体調などで個別に対応し休息できるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋を保管し職員が把握できるようにし、服薬管理を徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操などを行い個人の好みに合った活動を行います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には職員やご家族と戸外へ出られています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に金銭管理をお願いしています。買い物については希望に沿うように意見を伺いお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは常に可能で必要に応じて支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつでも共有スペースに来れるように、清潔に心がけています。オーシャンビューが見えやすいように、華やかな飾りつけしないように心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースだけでなく玄関ホールにも椅子を設置し観葉植物や写真啓示を行い居心地の良い環境づくりに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具をお持ちいただき、入居前と変わらぬ環境で安心して過ごせるよう配慮をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様それぞれの状態を確認し、居室だけに限らず全体について職員で意見を出し、その都度の状態変化に合わせた支援が行えるよう努めています。		